

愛あるは良い

「愛あるは イー！」

2 年 A 組から響き渡る教員の声。慌てて入ってみると黒板には、

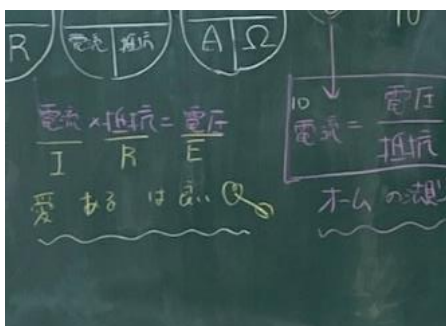
I R E の文字が黒板に書かれています。

I は intensity of electric current 電流、R は resistance 抵抗、E は electromotive force 電圧



を意味します。オームの法則を使い、回路図の電流の値や、抵抗・電圧の値を求める授業でした。“電流は電圧に比例する”この関係を式に表し、変形していくと

$I \times R = E$ の関係式が得られます。それぞれの値を代入して答えを出すので、 $I \times R = E$ を理解し、覚えていなければ、正解は得られません。



そこで「愛あるは 良い」 ↓

$$\begin{array}{ccccc} I & \times & R & = & E \\ \text{愛} & \text{ある} & \text{は} & \text{イー!} & \end{array}$$



と覚え方が紹介されていたのです。愛があることはとても良いこと。素敵な語呂合わせに学級に笑いがこぼれます。

そこに愛はあるんです。

ところで、右の四角の中の記号は何を意味しますか？

答えは“電源”です。電流を送り出す源です。“愛”はここから送り出されているのです。



3 年 B 組は体育です。サッカーの授業です。4 人で四角形をつくり、中にいる 1 人にそのボールを奪われぬよう、パスを送っています。“鳥カゴ”という練習です。パス回しを向上させる練習のようです。



中にいるひとりだけがゴールと音を立てて走り出すと、周りの 4 人は、ボール送り出すタイミングをずらす、視線とは違う方向に送り出す、ギリギリまで引きつけた上で他方へボールを送るなど、フェイクを入れパスを回していました。中の一人も 4 人にフェイントかけながら、相手の行動を予想し、果敢に攻めます。生徒たちは筋肉も頭脳も使っていました。

1 年 A 組は英語です。英作文の時間のようです。内容を生徒に問うてみると、「スキー教室の思い出を英作文してます。アダム先生 (ALT) に絵葉書にして送ります。」英作文だけでもハードルが高いのに、思い出を文章にして、さらには



絵葉書にするとはい…驚きです。できれば、絵葉書にするときに気持ちを込めて書き上げてほしい。そこに愛があれば、“絵葉書を送る”が、“絵葉書を贈る”に昇華します。

愛あるは良いことです。

